

庭野正和

国際課の陳欣さんから、3月の天津市の気候はとても寒く、またPM2.5用のマスクは必需品と聞いていたのでしっかり対策して訪問したが、連日良い天気恵まれた上に、全人代が開催されていたこともあり空気は綺麗だったので、事前の準備品は良い意味で不要になった。

北京空港から天津市への移動手段は新幹線を選択した。空港から新幹線始発駅の北京南駅に行くのに地下鉄を予定していたが、ガイド役の馬姫楠さんに電話したら「心配だからバスにして」と不安そうに言うので、バス乗り場を何とか見つけて乗り込んだ。全人代開催中ということもあってか、道路はそれほど渋滞しなかった。しかし巨大な北京南駅に着いてからが大変だった。意外なことに、新幹線に乗る前に荷物と身体検査が空港と同じようになり、安全対策が徹底していた(後に体験したが、地下鉄もすべての駅で検査があった。バスには検査こそなかったが、保安員が乗り込んでいたり、車掌が声掛けをしたりしていた)。さらに切符売り場が乗車改札の裏にあって見つけるのに時間がかかった。筆談で希望した乗車券をやつとの思いで購入した。時速288km ノンストップで30分間の新幹線の旅は非常に快適だった。天津駅では人々の流れに乗って出口に向かったところ、馬さんが待っていた出口とは違う所に出てしまったが、庭野の名前を書いた紙を広げて走って来てくれて会うことができ、やっと緊張感から解放された。

天津外国語大学は天津駅から車で10分程の歴史的建物保存地域に位置していた。後で見学して分かったことだが、この地域は五大道と言い、かつての租界で由緒ある建物群はそのまま使われているのだった。この一帯は非常に落ち着いた雰囲気があり、学問をするにもピッタリだと思った。

授業は毎日1コマ(100分)ずつ、計5回実施した。大学院1年と学部2,3年生が午前8時から始まる授業に一人の遅刻も欠席もなく、熱心にノートを取りながら取り組んでいた。学生の日本語力は、学部生こそ時折通訳する必要はあったが、院生のそれは相当に高く、その場で書く感想文は全て日本語で完璧に綴られていた。4年間で日本語の読み・聞き・書きをここまで身に付けられる能力が彼らにあることがうらやましく思われた。と同時に日本語教育の授業方法にその秘密があるのだろうと興味をもった。学生たちは日本の学校での教育内容や理科教育に興味関心を高く寄せていた。特に理科授業では実験を組み込んで授業を進めたところ、このように自分が物を使って何かをして考えることはこれまで体験したことはなかったと言い、夢中になって取り組んでいた姿は小学生のようであった。

天津外国語大学の先生方の授業も拝見させていただいたが、どの教室も学生たちの視線がしっかりと教師に向けられ、真剣さが伝わってきた。空き時間の学生たちの様子はというと、一人一人が廊下や売店の周囲に並んでいる机に向かって予習や復習に余念がなかった。外国語大学の特徴のヒヤリング・スピーキングの音もあちこちから聞こえてきた。私が見慣れているおしゃべりの姿はどこにも見出すことはできなかった。これが中国の国際的に高い学力の源かと感心した。

予定にはなかった修校長(学長)、朱院長(学部長)先生等との会談では、テレビで見るような国賓クラスの立派なソファーに並んで座り、日本文化や社会状況等についてお話しでき、緊張感の中にも日中友好が図れたと自負している。

授業後は馬さんのエスコートで、天津自然博物館、天津博物館、古文化街、永安菜市场、応永里小区、和平区の繁華街等々を毎日訪ね、中国の文化や生活の現状について見聞を広めることができた。

滞在中、終始お世話になった皆様にお礼申し上げますとともに、4月から武蔵野大学に来られる劉先生、馬姫楠さんに再会できることを期待して報告とします。



庭野先生、北京駅にて (Beijing Railway Station)



北京⇄天津間を30分で結ぶ新幹線-和諧号



天津外国語大学の学生授業風景



庭野先生、天津外国語大学にて





天津外国語大学の多種多様な学食



庭野先生、天津古文化街にて



庭野先生、天津五大道にて